

初見演奏能力からみたシニアへの効果的なピアノ指導（2） —初心者と熟達者の調査結果を中心に—

生涯学習音楽指導員
三上香子

はじめに

本稿は、初見演奏能力からみたシニアへの効果的なピアノ指導（1）の続稿である¹。前稿では、シニア（60歳以上）の初見演奏能力の差は、年代差よりもむしろ学習経験の有無にみられた。また、ピアノ初心者がもつ内因的な学習過程が推測された。そこでこれらの結果をもとに、シニアを指導する際のピアノ指導者の心構えについて考察した。

本稿では、シニアの演奏レベルの差に着目した。具体的には、熟練者と初心者のシニアピアノ学習者に対してそれぞれ異なる初見演奏能力判定を実施し、得られた結果から未知曲を演奏する際の効果的なピアノ指導法を検討する。

1. 調査の目的と対象

本稿では、シニアが意欲的に演奏できる楽曲の内容や小節数の範囲を割り出すことを目的とした。調査協力者は、前稿の調査結果からミスなしと音ミスのみ9名を「熟達者」とし、間違いが多くミスの種類判別ができなかった者（判別不可能）と右手だけで演奏した者（右手奏）の13名を「初心者」として抽出した。次の図表1は、調査協力者の内訳である。

図表1 調査協力者の年齢層と経験年数と学習年数（2019年6月現在 22名）

熟達者（9名）			初心者（13名）		
年代	経験年数	学習年数	年代	経験年数	学習年数
60代前半(1)	無	8年	60代前半(1)	無	4カ月
60代後半(5)	1年	2年4カ月	60代後半(3)	無	3カ月
	1年	6年		無	10カ月
	5年	1年		無	1年1カ月
	5年	2年	70代前半(5)	無	5カ月
	7年	6カ月		無	6カ月
70代後半(2)	無	1年半	無	1年	
	7年	4年	無	1年半	
80代後半(1)	3年	1年半	無	1年7カ月	
			無	10カ月	
			無	1年	
			無	1年10カ月	
			無	4年4カ月	

（ ）内の数字は人数、経験年数は成人までの学習年数、学習年数は成人後の学習年数をあらわす

熟達者の平均年齢は 70.6 歳、平均経験年数は 3 年 4 カ月、平均学習年数は 2 年 3 カ月だった。他方、初心者の平均年齢は 71.3 歳、平均学習年数は 1 年だった。なお、全員が過去にピアノ学習経験をもたなかった。

2. 調査の方法

調査では、熟達者と初心者に対してそれぞれに初見演奏課題を作成し、初見演奏能力判定を実施した。調査は、同年 6 月 4 日から 26 日にかけておこなわれた。調査の流れは、前稿と同様に、楽譜を渡して 5 分間練習した後に弾いてもらい、音・左右の運指・リズム・テンポの 4 項目のミスの状態をみた。前稿と同様に、一般的な初見演奏判定は、数十秒の予見後に演奏し、短時間で楽譜を効率よく読んで正しく演奏できるかどうかをみることをいう。しかし本調査では、演奏者の演奏能力全体をみることを目的としたため、長めの予見時間を設定し、時間内であればピアノ練習も可とした。さらに今回は、ミスの内容に加えて調査協力者の発言や様子も調査項目とした。

熟達者用の初見課題は、前稿の結果を参考に、2 部形式のオリジナル課題を作成した。具体的には、左手の伴奏形はコードをもとにした 2 和音を用いた。なぜなら、この伴奏形は、熟達者がすでに学習済みの内容であることから、容易に両手で拍をとることができる予想されたからである。また、右手には指ひろげ、指くぐりを用いるなど、第 1 調査よりも少し難易度を上げた。指番号は記載しなかったが、自然な指使いが期待された。強弱、テンポはとくにミスには計上されなかった。さらに、曲全体を前回の倍の長さ（16 小節）にすることで、調査協力者の反応もみた。

初心者用の初見課題では、前稿で使用した楽譜にわずかに修正を加えたものを使用した。具体的には、前回の右手のスラー、スタッカートをすべて削除した。また、フレーズの冒頭に音を足し、最終の左手が拍をとる部分は休符にした。これは、両手で拍を取りやすくするためである。また、指番号の記載は 1 部分にとどめたが、その他の部分でも不自然な指使いはミスとして計上した。下記の譜例は、熟達者用と初心者用の楽譜である。

初見課題 (A)
楽譜をよく見て5分間練習してください

♩ = 66

The score for '初見課題 (A)' is in 4/4 time with a tempo of ♩ = 66. It consists of four systems of piano music. The first system starts with a mezzo-piano (mp) dynamic. The second system begins at measure 5. The third system starts at measure 9 and features a mezzo-forte (mf) dynamic. The fourth system begins at measure 13 and also includes a mezzo-forte (mf) dynamic. The piece concludes with a double bar line.

初見課題 (B)
楽譜をよくみて5分間練習してください

The score for '初見課題 (B)' is in 4/4 time. It consists of two systems of piano music. The first system starts at measure 1. The second system begins at measure 5 and includes fingering numbers 2, 1, and 2 above the notes. The piece concludes with a double bar line.

図表 2 熟達者用初見課題 (A) と初心者用初見課題 (B) の楽譜

3. 調査の結果

(1) 熟達者の結果

前稿の調査においてミスがみられなかった3名のうち1名は、今回もミスなしで演奏された。しかし残りの2名には平均7.5回の音ミスがみられ、1名は音ミスと同時に右手の指使いにミスがみられた。残りの1名は、音ミス、リズムミス、フレーズごとに演奏が止まるという複合型のミスがみられた。

次に前稿の調査で3回以内の音ミスで演奏した6名には、今回は平均8.3回の音ミスがみられた。具体的には、音ミスのみが2名、音と左手の指使いミスが1名、音とリズムミスが1名、複合型（音、指使い、リズム、テンポのうち3項目にミスがみられた状態）が2名だった。

初見課題 (A)
楽譜をよく見て5分間練習してください

The image shows a musical score for a sight-reading exercise. It consists of four systems of music, each with a treble and bass clef staff. The tempo is marked as quarter note = 66. The first system starts with a mezzo-piano (mp) dynamic. The second system starts with a mezzo-forte (mf) dynamic. The third system starts with a mezzo-piano (mp) dynamic. The fourth system starts with a mezzo-forte (mf) dynamic. Various notes and chords are circled or boxed to indicate errors made by advanced players. For example, in the first system, the first measure of the right hand has a circled C note, and the second measure of the left hand has a circled chord. In the second system, the first measure of the left hand has a circled chord. In the third system, the first measure of the right hand has a circled note. In the fourth system, the first measure of the right hand has a circled note, and the second measure of the left hand has a circled chord.

図表3 熟達者のミスの箇所

上記の図表3は、熟達者の主なミスの箇所をあらわした譜例である。楕円形で囲まれた箇所は指使いミス、四角はリズムミスをさす。具体的な指使いミスでは、1小節目の右手C音は通常1指が使用されるが、2指が使われた。また、2小節目の左手の和音は、通常5指と2指で使用されるが、5指と1指が使われ、4小節目は通常5指と1指が使用されるが、5指と2指が使われた。リズムミスでは、第8小節の右手のリズムに乱れがみられた。なお、これらの運指ミスやリズムミスは、1度だけではなく、同じ音（和音）やリズムが現れたときにもみられた。次の図表4は、熟達者の初見演奏結果を表にしたものである。

図表4 熟達者の初見演奏の調査結果（9名）

ミスなし	音	音・運指	音・リズム	音・テンポ	複合型	判別不可能	右手奏
1	2	2	1	0	3	0	0

演奏後の様子では、「もう一度弾けばミスなしの自信がある」（1名）という発言もみられたが、「うまくいかなかった」（3名）、「疲れた」（4名）という発言のほうがより多く得られた。また、演奏後の熟達者全員からは、疲労感が感じられた。

(2) 初心者の結果

前稿では判別不可能だった6名のうち4名は、ミスの判別ができるレベルの

演奏をすることができた。内訳は、ミスなし1名、指使いのみのミスが1名、音ミスと指使いミスが1名、複合型が2名である。他の1名は今回も判別不可能だった。なお残りの1名は、前は両手奏だったが今回は右手奏になるというマイナーチェンジがみられた。そこで彼女に両手奏から右手奏に変更した理由を尋ねたところ、「へ音記号が読みにくいので、両手は無理です」と回答された。

次に、前稿には右手奏だった7名のうち4名は両手奏で演奏し、1名は判別不可能だったが、3名はミスの判別が可能な演奏が行われた。ミスの内訳は、音ミスのみ1名、運指ミスのみ1名、音と運指ミスが2名である。また、そのうち1名は、演奏前に低音部に階名を書いて両手で演奏した。なお、残りの3名は今回も右手だけで演奏された。

初見課題 (B)
楽譜をよくみて5分間練習してください

図表 5 初心者のミスの箇所

上記の図表 5 は、初心者の主なミスの箇所をあらわした譜例である。楕円形は指使いミス、四角はリズムミスをさす。具体的な指使いミスでは、3小節目の右手F音は通常4指が使用されるが、2指が使われた。同様に2小節目の左手は、通常5指と2指で使用されるが、5指と1指が使われ、3小節目のG音は通常1指が使用されるが、2指が使われた。また、最終小節の和音は、通常は3指と5指が使用されるが、2指と4指が使用された。なお、熟達者と同様に、運指ミスやリズムミスは1度だけではなく、同じ音（和音）やリズムが現れたときにもみられた。次の図表 6 は、初心者の初見演奏結果を表にしたものである。

図表 6 初心者の初見演奏の調査結果 (13名)

ミス なし	音	運指	音・運指	音・ リズム	音・ テンポ	複合型	判別不可能	右手奏
1	2	1	2	0	0	2	1	4

演奏後の様子では、「うまくいったと思う。できた」(4名)、「見てすぐに弾けそうだった」という発言に加え、全員から「練習したいから楽譜をください」と依頼された。しかし、「タイがわからない。習ったかもしれないが忘れた」「へ音記号に自信がない」という、楽典に関する不安も語られた。なお、演奏時の様子では、すべての初心者が、ブラインドタッチではなく、手元と楽譜を頻繁にみながら演奏している様子がみられた。さらに、「前回とほとんど同じ曲ですよ」という筆者の問いかけに対しては、ほぼ全員が「覚えていない」「知らない曲だ」と回答した。

4. 調査の結果の考察

熟達者を対象にした調査では、ミスが増加し、「うまくいかなかった」という感想が多く述べられた。これは作成された熟達者用初見課題(図表2の左)のレベルが、彼女らには難しかったことが考えられる。また、疲労感を表わす発言と様子がみられたことは、課題の長さに関連すると思われた。したがって、これらの熟達者のミスの増加と発言や様子は、作成した課題の難易度と長さに関連することが推測された。

他方、初心者を対象にした調査では、課題の長さはとくに問題にはならなかった。さらにミスの判別が可能になったことや両手奏がみられたことなどから、前稿の調査結果と比較して、容易に演奏できるようになったといえるであろう。その理由としては、初心者用課題の作成では、表現に関する音楽記号を削除したことと、両手でリズムを取ることができると思われる楽譜に変更したこと、2点が考えられた。さらに調査では、自宅練習を望む声も得られた。このように、初心者にとって楽譜の見た目がすっきりしていることと、ひとめでリズムが取りやすいと感じることの2点が、練習意欲に繋がったのではないかと推測された。

なお調査では、初心者に対する音楽記号と低音部の読譜を指導する必要性に加え、楽曲の記憶と演奏時の視線という新しい着眼点が示された。これらはシニアのピアノ初心者を指導するにあたり、ミスの軽減につながる重要な視点だ

と考えられる。

5. 調査の結果からみたシニアへのピアノ指導の検討

本稿は、前稿に引き続き、高齢者のピアノ学習支援を前提にしている。そこでここでは、調査結果をもとにシニアに対する効果的なピアノ指導法を検討する。なお本稿は、初見演奏能力判定をもとにした調査研究である。したがってここで検討される指導内容は、レッスンの際にシニアが未知曲を演奏する場合を前提としている。なお、シニアが未知曲を演奏する場合とは、初見演奏の練習や次回の課題を予習することなどがあげられる。とくに次回の課題曲の予習が学習者の練習意欲を促すことは、多くのピアノ指導者の周知の事実である。

さて、熟達者に対する調査では、16小節の曲に集中力の低下がみられた。このことから、熟達者には、16小節未満の課題の提供が妥当であると考えられる。また、課題の難易度においては、すでに学習済みの内容であることを過信せず、学習者の演奏能力を十分に把握し、難しすぎることがない配慮が必要であろう。具体的には、数小節を弾いてもらい、音ミスや不自然な運指が多くみられるようであれば、そこだけを取り出したり、楽曲のなかで難しいと思われる部分だけを先取りしたりするなど部分練習に特化した指導も考えられる。このように、曲全体にとらわれない予備練習を取り入れたピアノ指導も可能であろう。

次に初心者の調査では、8小節の課題においても判別不可能や右手奏の者がみられたことから、8小節未満の課題の提供が妥当だという意見もあるだろう。しかし8小節は、1部形式の楽節構造の最低小節数であり、それ未満のものは、音楽的に魅力がなく、シニアが学びたいという意識をもちにくいと思われる。したがって、初心者に対する未知曲の予備指導では、8小節をめやすにした課題の提供が妥当であろう。具体的には、さきに8小節を右手の旋律だけを通して弾いてもらい、ある程度の曲の流れを知ったうえで、両手に挑戦してもらうことや、右手の旋律だけをスムーズに弾けるようになるまで練習してもらうことなどがある。

最後に、初心者の調査で示された音楽記号と低音部の読譜を指導する必要性、楽曲の記憶、演奏時の視線の3点について記載する。第一に、初心者への音楽記号や低音部の読譜の指導については、すでに市販されているピアノ教材を活用することで解決されるであろう。第二に楽曲の記憶については、先行研究や文献にもみあたらなかった。楽曲を記憶することは、ピアノの上達に欠かせない要素であることは言うまでもない。本研究の学会発表では、「旋律を視唱すること」「短いフレーズを繰り返し演奏すること」という具体的な指導例が提案された²。それに加え、筆者は「楽譜を写譜すること」も、楽曲の記憶には効果的

であると考えている³。しかしそれらの具体的な指導例は、現時点では経験則にとどまるにすぎない。第三に演奏時の視線については、音楽教育学や情報処理の分野で論文が散見できる⁴。しかしそれらはすべて研究対象にピアニストや大学生が選出されており、シニアを対象にした研究は行われていなかった。以上のことから、シニアを対象にした楽曲の記憶と演奏時の視線については、今後の研究に期待したい。

おわりに

前稿では、シニアのピアノ学習者に統一された初見演奏課題を用いてミスの種類を年代別、学習経験別、学習年数別に分類し、得られた結果から指導者の心構えについて考察した。本稿では、熟達者と初心者を選出し、それぞれに異なる初見演奏課題を用いてミスの種類や発言を集計し、得られた結果から、未知曲を演奏する際の具体的なピアノ指導法を検討した。このように筆者の研究は、これまでひとくくりにされていた60歳以上のピアノ学習者について、年代や経験や学習年数、演奏レベルの違いについて言及した、あたらしい視点をもつ研究であると思われる。前項で記載したように、超高齢者社会の日本では、60歳以上の年齢層の幅は、日々広がっている。そして、今後ますますそれに相応した学習や指導が求められる。シニアのピアノ学習に関する研究は、引き続き積極的に行われなければならないであろう。

-
- 1) 三上香子「初見演奏能力からみたシニアへの効果的なピアノ指導（1）：年齢別、経験別、年数別の調査結果を中心に」『関西教職教育研究』第8号、26-34。
 - 2) 音楽学習学会第15回研究発表大会2019年度。
 - 3) 楽曲の記憶については、三上香子「滝本裕造のピアノの基礎について」（公財）音楽文化創造、音楽文化の創造第75号、2016年、32-35の「写譜」を参考にされたい。
 - 4) おもな論文は、夏目桂子「ピアノ教育における中級者の視線移動と演奏エラー：初見から完成までの演奏の変化による学習効果と演奏指導へのアプローチ」兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科『教育実践学論集』第21号61-73、2020年。吉武雅子（他）「ピアノの初見演奏に対する演奏指導が頭頸部および視線の動態変化に及ぼす影響」『洗足論叢』第47号97-104、2019年。扶瀬絵梨奈「保育の表現技術「音楽I」における専門的技術に関する考察：ピアノ演奏時の視線行動の熟達差を通して」名古屋柳城短期大学『研究紀要』第39号313-331、2017年。笠原翔平（他）「視線計測データに基づく習熟度別ピアノ演奏者の読譜方略の特徴抽出」『情報科学技術フォーラム講演論文集』14巻3号、307-310、2015年などがあげられる。